

ソフトウェアの時代

サイボウズ株式会社
代表取締役社長

青 野 慶 久

私は、「サイボウズ」というコラボレーション・ソフト（グループウェア）を開発する企業で、現在、社長を務めている青野と申します。この会社は、今から15年前の1997年に、私を含む3人で創業したベンチャー企業です。コラボレーション・ソフトの専門メーカーとして事業を続けてまいりましたが、それなりに規模が大きくなり、従業員は400人を超え、今は東証一部に上場しています。このような場で何を書けばよいか、なかなかよいアイデアを思いつきませんでした。が、今までの経緯をつらつらと振り返って書きながら、現在考えていることを加えてみることにしました。その中で、みなさんの心に残る話が少しでもあればと思います。

私の今までの人生で、一番大きな決断は「ソフトウェア」という分野を選んだことだと思います。私は子供のころからモノを作るのが大好きでした。しかし、手先が不器用だったので、半田付けもままならず、電子工作は失敗ばかりでした。そこに出てきたのがパソコンでした。不器用でもいくらでもやり直しがきくプログラミングは、本当に楽しいものでした。電子工作ですと、買ってくるパーツによって作られるモノは制限されますが、プログラミングで生み出されるソフトは無限です。1台のパソコンで、10個でも100個でもソフトを作ることができます。また、他の人が作ったソフトであっても、電子的にコピーをすれば、すぐに同じように使うことができます。私は子供ながらに直感で「これからはソフトウェアの時代だ」と確信しました。

「情報システム」という言葉にあこがれを感じ、大阪大学工学部情報システム工学科を1994年に2期生として卒業しました。1期生には、サイボウズを共に起業することになった畑慎也さんがいます。彼と出会うことができたのが大学時代の最大の収穫です。

卒業後は、そのままソフトウェアの道に進めば良かったのですが、世界的に有名なビジネスソフトの企業は日本にないので、進路に悩みました。ゲームメーカーに行こうか、中小のソフトウェア企業に入ろうか、いろいろ悩みましたが、最終的には関西にある大企業に入るのが堅いだろうと考え、松下電工に入社しました。当たり前のことですが、松下電工は電機メーカーです。まずはハードウェアがあり、それを制御する目的でソフトウェアを付加するようなモノ作りでした。ソフトウェアから先に発想する私のモノ作りのイメージとは随分かけ離れており、違和感をもつこともありました。

そんなところにインターネットの波が押し寄せてきました。Webという標準技術によって、世界中が簡単にリッチな情報をやり取りできるようになる。これが世界を大きく変えていくことを直感しました。私が目を付けたのは、「コラボレーション（協調作業）」という分野です。Webを使った簡単な掲示板ソフトを目にしたとき、この技術を使えば、世界中の人がどこにいても効率的かつ楽しく働けるようになる時代が来ると想像できました。インターネットで事業をしてみると、私は別にショッピングに興味があるわけでも、ゲームをしたいわけでも、映画や本のビジネスに関心があるわけでもありません。やはり、自分はやりたいことをやろう。私は、このWebという技術で、人と人がコラボレーションをするための支援ツールの事業を立ち上げることを決心しました。そこで、畑さんと松下電工時代の先輩と、3人で立ち上げたのがサイボウズです。

このコラボレーション・ツールの分野は競争が熾烈で、IBMやMicrosoft、最近ではGoogleなど、世界最高峰の列強がしのぎを削っている業界です。冷静に考えれば、たった3人のソフト会社が戦えるはずはなかったのですが、時代と運が後押ししてくれました。

Webの技術を使ったシンプルなコラボレーション・ツールは、インターネットを通じて格安で販売することができ、日本全国たくさんの中小企業のみならずから支持をいただくことができました。その後は中堅・大企業、いわゆるエンタープライズ向けのコラボレーション・ツールの開発にも取り組み、KDDI様や大和証券グループ様など、日本を代表する企業にご導入いただけるようになり、国内の導入企業数でIBMを抜き、トップに立つことができました。

そんな中、今、日本では異変が起きていると感じています。本来であれば、日本の電機メーカーが獲得すべきであったデジタルコンテンツ配信のスタンダードは、AppleやAmazonなどのアメリカ勢に押さえられてしまいました。そのため、利幅の薄いハードウェアのビジネスを中心にせざるを得ず、韓国など新興企業の勢いに押されているように感じます。

ハードウェアとソフトウェア。もちろん、どちらも大事なものではありませんが、これまで日本のモノ作りにおいては、ソフトウェアが軽視されてきたように思えてなりません。ハードウェアが作り出す、より美しい画面、より大容量の記憶装置ももちろん大切ですが、一般大衆の人たちにとっては、ソフトウェアが生み出す、わかりやすいユーザーインターフェース、使いやすい操作性の方が大切な要素です。ハードウェアのおまけのように開発されたソフトウェアでは、IT先進国であるアメリカの製品に太刀打ちすることはできません。

これからは、電機業界だけでなく、自動車業界でも同じようなことが起こると思います。自動車も今や電子化・電動化が進み、ソフトウェアで制御しながら走っています。電気自動車の時代が本格的に来れば、優れたガソリンエンジンを作る技術は、もはや価値を生めない知識となっていくと思います。その代わりに、自動車を情報端末と捉えることができれば、ソフトウェアやネットサービスと組み合わせ、新しい価値を次々と生み出せる時代になるでしょう。

さらに、そのソフトウェア業界でも大きな変化が起きると予想されています。現在、日本の大手ソフトウェア企業は、いわゆる受託開発という労働集約的なソフトウェア開発を主業としています。しかし、クラウドの技術を使えば、世界のどこにいても優れたソフトウェアを瞬時に利用開始することができます。今まで

何カ月、何年もかけて開発していたソフトウェアが、クラウドの基盤を使えば、数週間、数日、場合によっては数時間で実現できるようになります。たくさんの人を抱え、その工数の総和によって売上を伸ばしていたビジネスは、採算が悪化するでしょう。

またクラウドには、今までの商慣習を一変させる力があります。音楽業界は、大きな変化にさらされています。私が高校生のときに、レコードがCDに置き換わりましたが、買いに行くレコード屋は同じでしたし、10曲入って3,000円というアルバムのスタイルも同じでした。しかし、クラウドはレコード屋を不要にし、アルバムを買わなくても好きな曲だけ選んで安く買えるようにしました。テープにダビングしなくても、手持ちのどの端末からも即座に聞くことができます。出版業界も同様に、クラウドと電子ブックによって、印刷・製本・配布という、何十年、何百年も続いてきたビジネスモデルが変わります。

これらを総じて見れば、今までの成功体験を捨て、新しい時代の価値観に合わせて大きく変化していかなければならない時が来ていると思います。しかし、日本企業は変化が遅れているように感じます。日本企業はどうして変わらないのか、変わらないのか。そが私の最大の疑問でしたが、一つの根本的な原因は「いびつな人口ピラミッド」にあるのではないかと思います。シンプルに言うと、若者が少ないから変わらない、ということです。社会に変化を生み出すのは、新しい感性であり、未来への強い欲求であり、それらを持つ若者です。少子高齢化というのは、未来への変化を望む人の数が減り、変化したくない人の数が増える社会とも言えます。これでは変化できるはずがないと思うのです。

ですから、まず日本は育児を重んじる社会にすることから始めなければならないと考えています。今まで女性に押し付けてきた、この育児という重要な仕事を、国全体を挙げて取り組んでいくことが、今最もやらなければならないことなのではないでしょうか。幸いなことにITの進化によって、自宅でも育児をしながら仕事ができる時代が来ています。私自身も、最近二人の子供（2歳と0歳）を授かり、毎朝子供の世話をし、保育園に連れて行っています。私はいわゆるワーカーホリックの類ですから、本当は育児を妻に任せ、会社の仕事に没頭したい気持ちがあるのですが、育児

から逃げてはいけないと思っています。次の世代を育てる仕事こそ、社会で最も重んじられるべき仕事であり、商売はそれがあってこそ成り立つからです。

また、私は二度の育児休暇を取得しました。東証一部上場企業の社長が育児休暇を取得するというのは異例のようで、多くのマスコミに取り上げていただきました。しかし、北欧などではむしろ育児休暇を取得しない男性の方が珍しいようで、私の例など、何の自慢にもならないようです。

今は積極的に子供を育てる夫のことを「イクメン」、孫を育てる祖父のことを「イクジイ」と呼ぶそうです。

子供を持つ親として、両親のサポートは精神的にも大きな助けになります。もし父親として育児に十分取り組めなかったのであれば、是非とも「イクジイ」となって若い世代に貢献していただきたいと思います。

以上、私がお伝えしたかったことをまとめますと、「ソフト」と「祖父」とがこれからの日本を救うということでした。長文駄文を最後までお読みいただき、誠にありがとうございました。

(情報システム 平成6年卒)

平成 23 年度『大阪大学工業会賞』受賞者決定

平成 23 年度大阪大学工業会賞の審査委員会（委員長：藤井宏一副会長）が 3 月 13 日に開催され、以下の方々の受賞が決定しました。

- | | |
|--------------|--|
| 山西 雄世 | 電子情報工学分野（電気電子情報工学専攻）
テーマ：「モジュラーマトリックスコンバータのマルチレベル化に関する研究」
指導教員：伊瀬 敏史 先生 |
| 久保 尚子 | 地球総合工学分野（地球総合工学専攻）
テーマ：「追波中の復原力喪失現象に対する新世代非損傷時船舶復原性基準案の策定」
指導教員：梅田 直哉 先生 |
| 塚本 智也 | 応用自然科学分野（生命先端工学専攻）
テーマ：「メタノール資化酵母における脂肪酸不飽和化酵素遺伝子 HpFAD2, HpFAD3 の機能解析」
指導教員：原島 俊 先生 |
| 井瀧 貴章 | 電子情報工学分野（電気電子情報工学専攻）
テーマ：「電力変換回路におけるスイッチングノイズ源のモデル化に向けた考察」
指導教員：舟木 剛 先生 |
| 中川 裕太 | 応用理工学分野（機械工学専攻）
テーマ：「ブルドーザブレードによる付着性土砂掘削作業の DEM 解析」
指導教員：辻 拓也 先生 |

応募者には、工業会が指定したキーワード **23 年度：「東日本大震災に遭遇して思うこと」** について 1,000 字以内にまとめていただき、併せて選考資料といたしました。